

臨海実験施設における 技術職員の役割

総合技術部 環境安全部門

(環日本海域環境研究センター 臨海実験施設)

技術専門職員 小木曾 正造

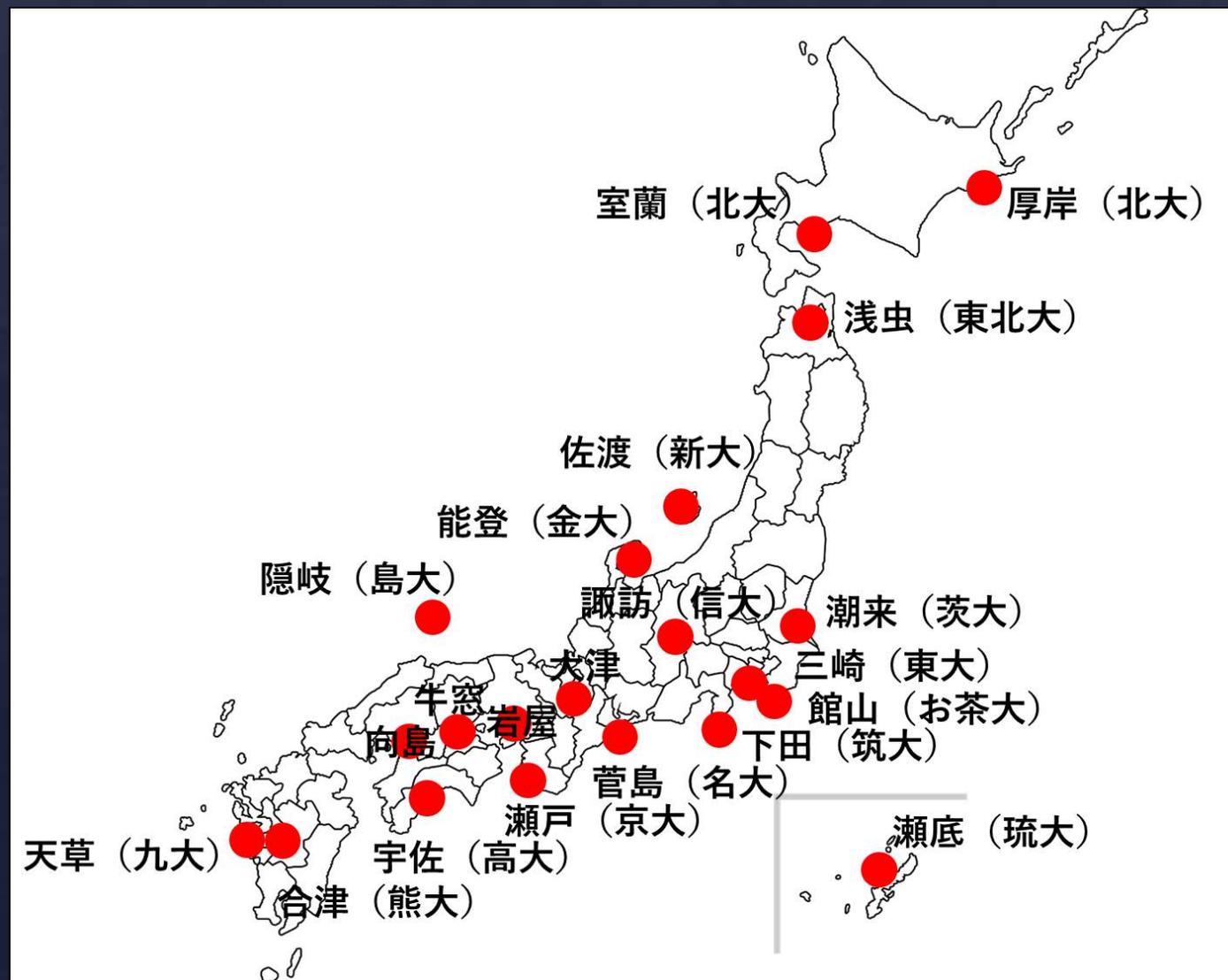
発表内容

◆臨海実験施設について

◆業務紹介

◆心がけていること

臨海・臨湖実験所とは



◇ 旧国立大学理学部に付属する臨海臨湖実験所は21カ所

◇ 設立当時から、他大学の臨海実習や研究者を受け入れてきた

臨海実験施設の位置



教職員・学生

教員 4名

教授 1名、 准教授 2名、 特任助教 1名

職員 3名

技術専門職員 1名、 技術補佐員 1名、 事務補佐員 1名

学生 9名

博士後期課程 2名、 博士前期課程 4名、 学部4年生 3名(東京理科大1名)

臨海実験施設

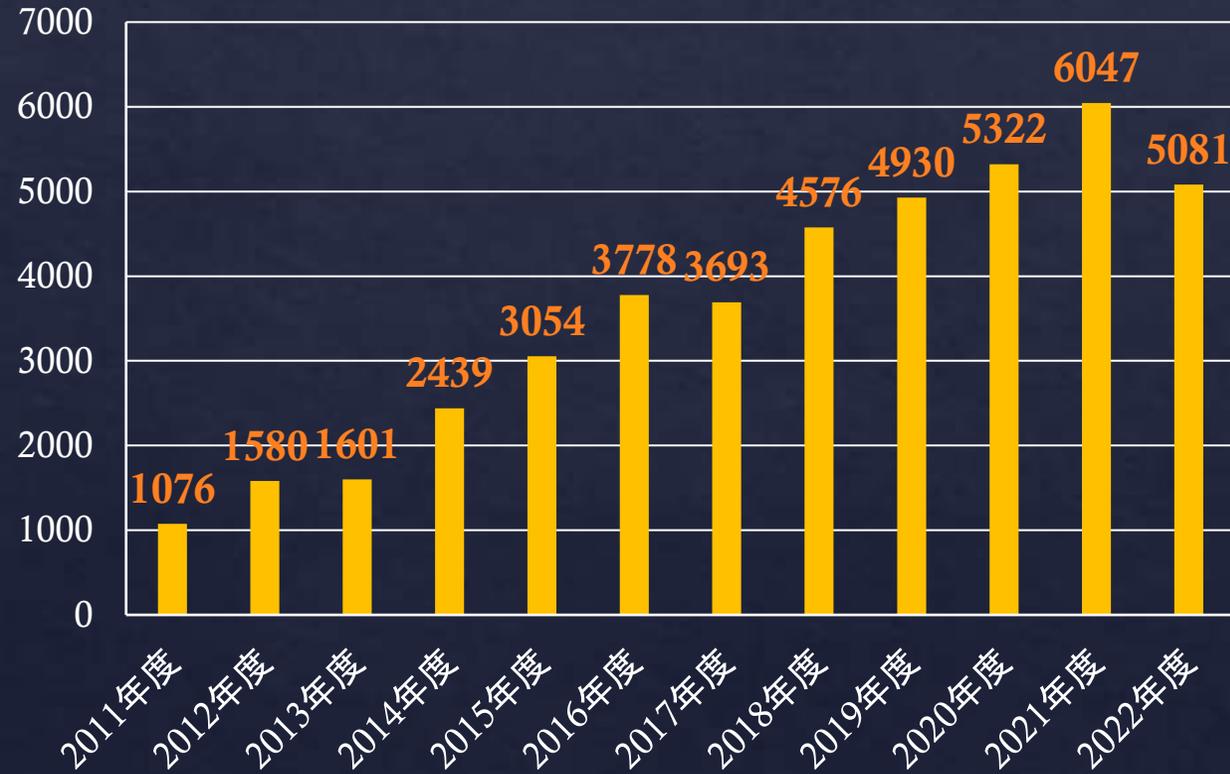


◇2012年から教育関係共同利
用拠点

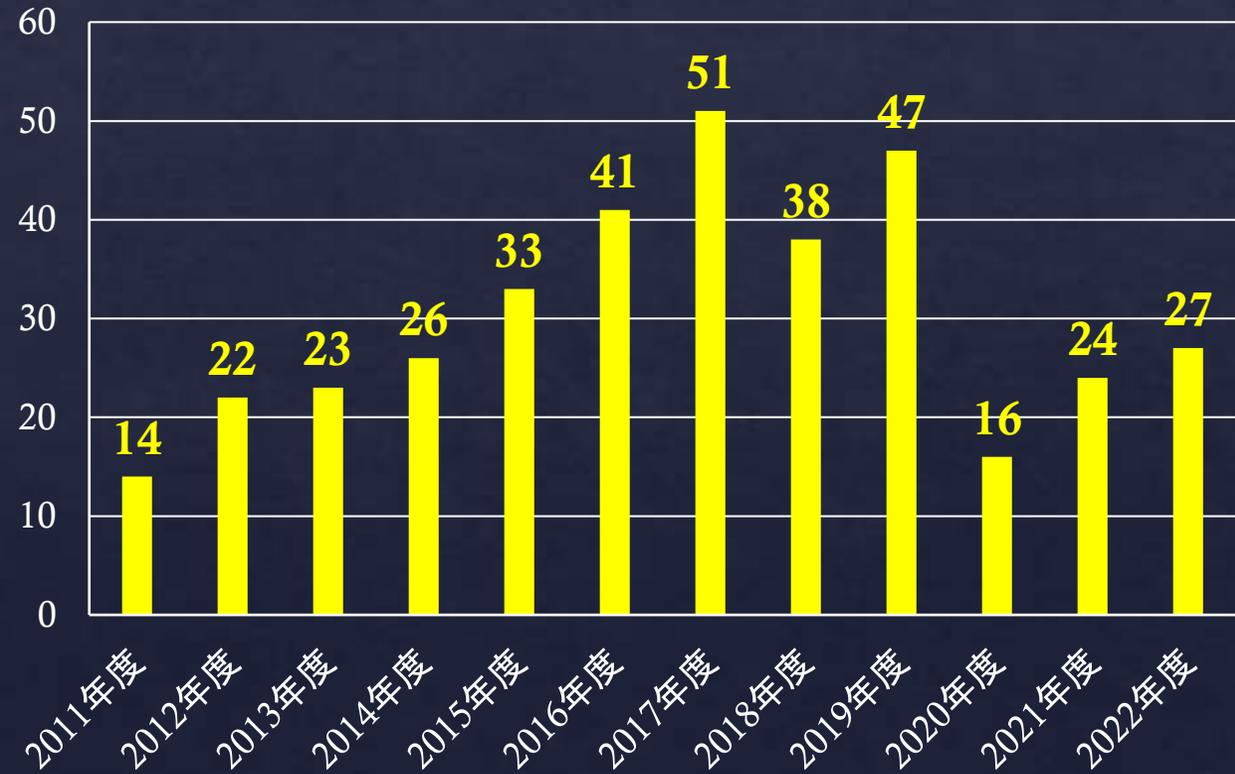
◇2016年から共同利用・共同研
究拠点（環日本海域環境研究
センター）

利用者数の変動

利用者延べ人数



利用大学数(海外含む全ての大学)



臨海実験施設の技術職員の業務

◇施設・設備の維持管理業務

◇教育拠点の業務

◇研究拠点の業務

施設・設備の維持管理



- ◇ 施設の見回り、施錠確認、電話・郵便物対応、掲示物作成、外来者対応、掃除・片付け、草刈り、樹木剪定、除雪、施設部対応、工事・保守点検業者対応、設備検査対応、各種許可申請、Webサイト管理、所属学生への生活支援、船舶整備、海水供給システム管理（配管清掃・交換、ポンプ切り替え）

教育拠点の業務

自大学実習3つ、応募型の実習5つ、高等学校の臨海実習5つにおいて、実習準備、野外活動安全管理、乗船実習、撮影、Webサイトへの掲載

磯採集での安全管理



スノーケリング指導



乗船実習

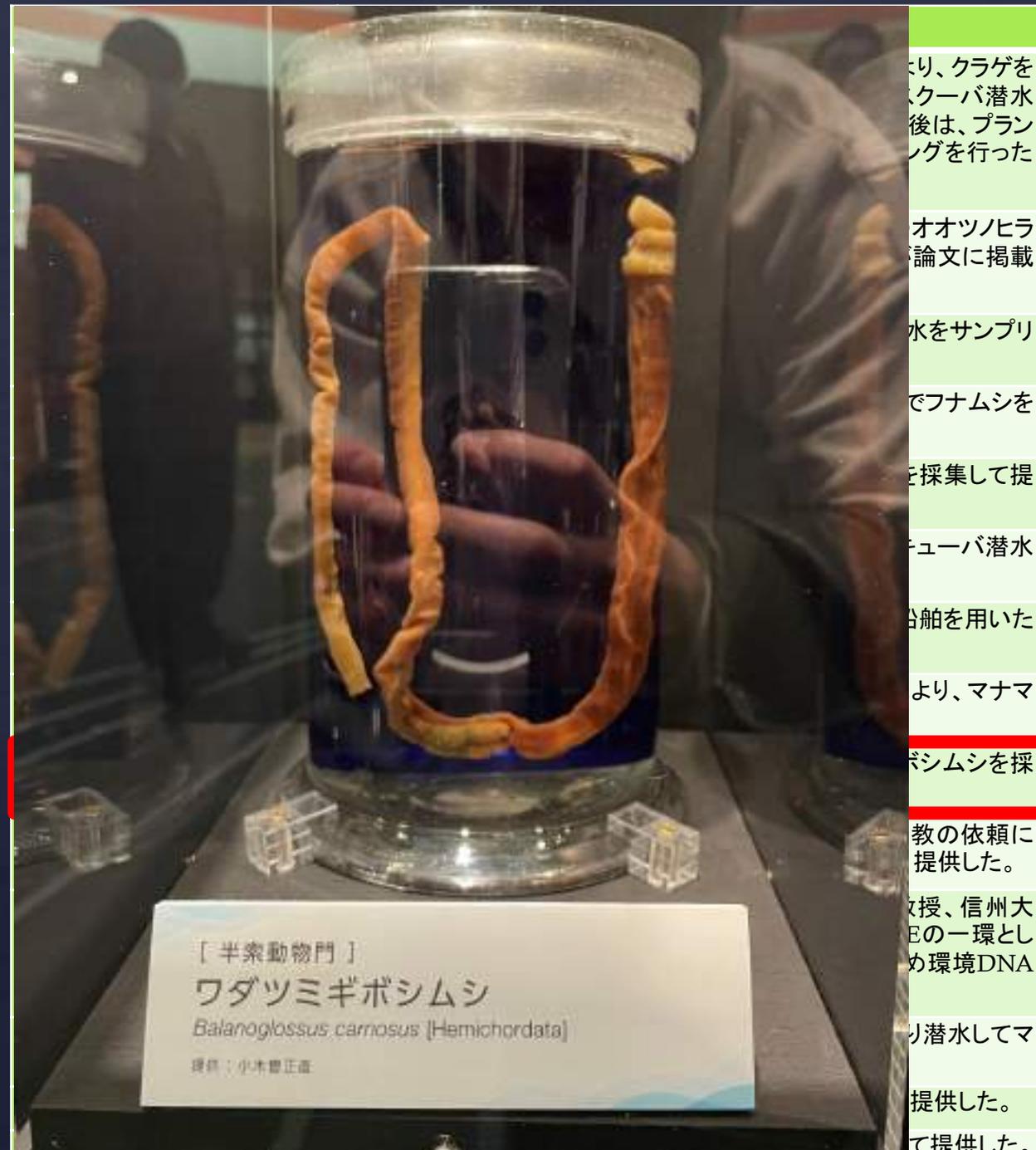


夜間灯火採集



研究拠点の業務

期間	業務内容
4月～3月	学境設、海設
4月12日、5月29日、6月19日、7月10日、8月18日、9月4日、20日、25日、10月18日、20日、23日、11月1日	受藻、
4月13日、7月4日	船
4月18日～25日、3月4日	授
6月6日、11月6日、12月2日、19日、3月14日	船
7月5日、8月18日、21日、9月1日、15日、10月2～5日、20日、21日	受・導、文
9月25～27日、10月2日	生
12月22日	ナ
1月11日、22日、23日、2月18日、3月12日、18日	受、る、査
2月2日、3月5日	船



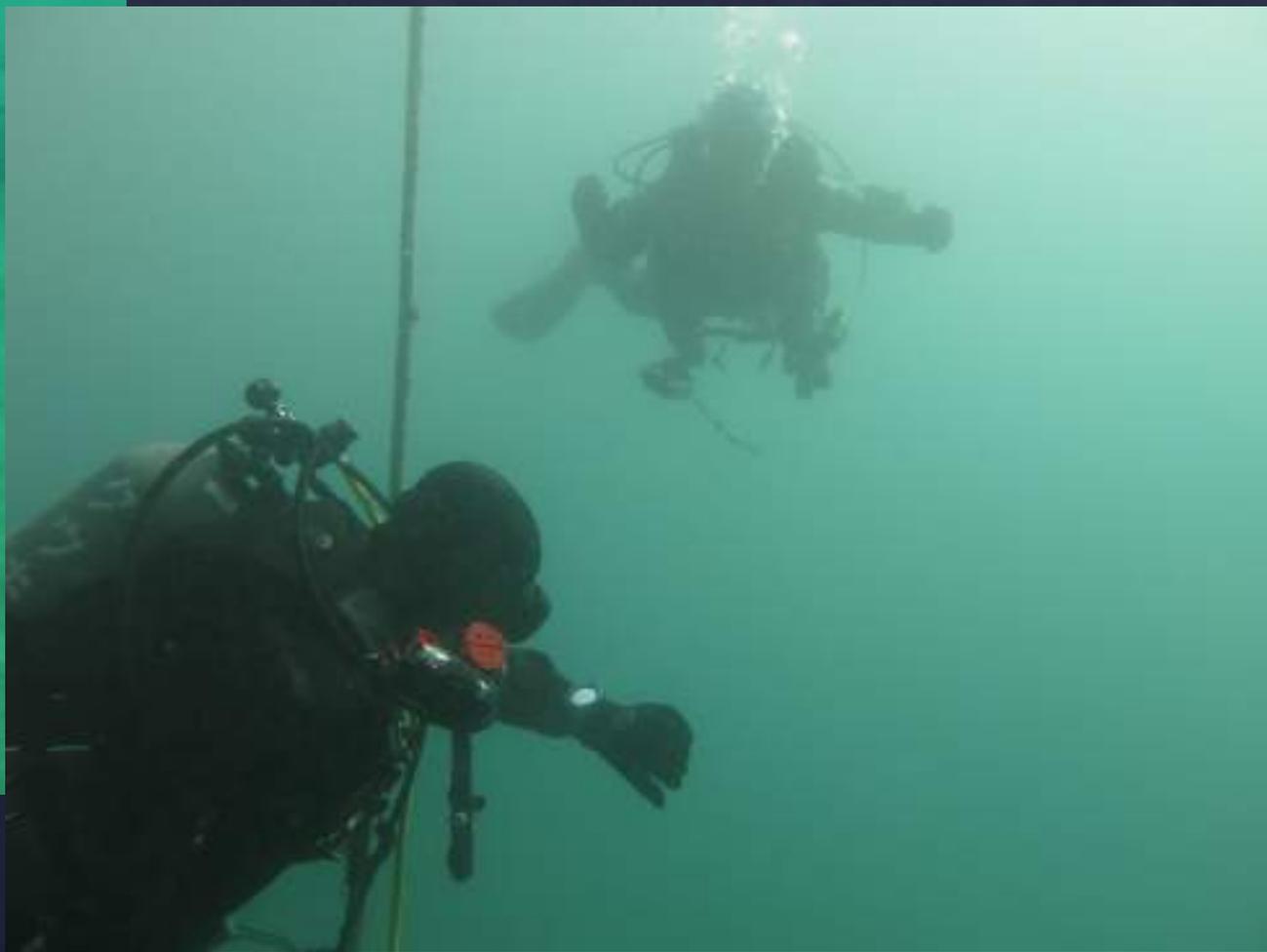
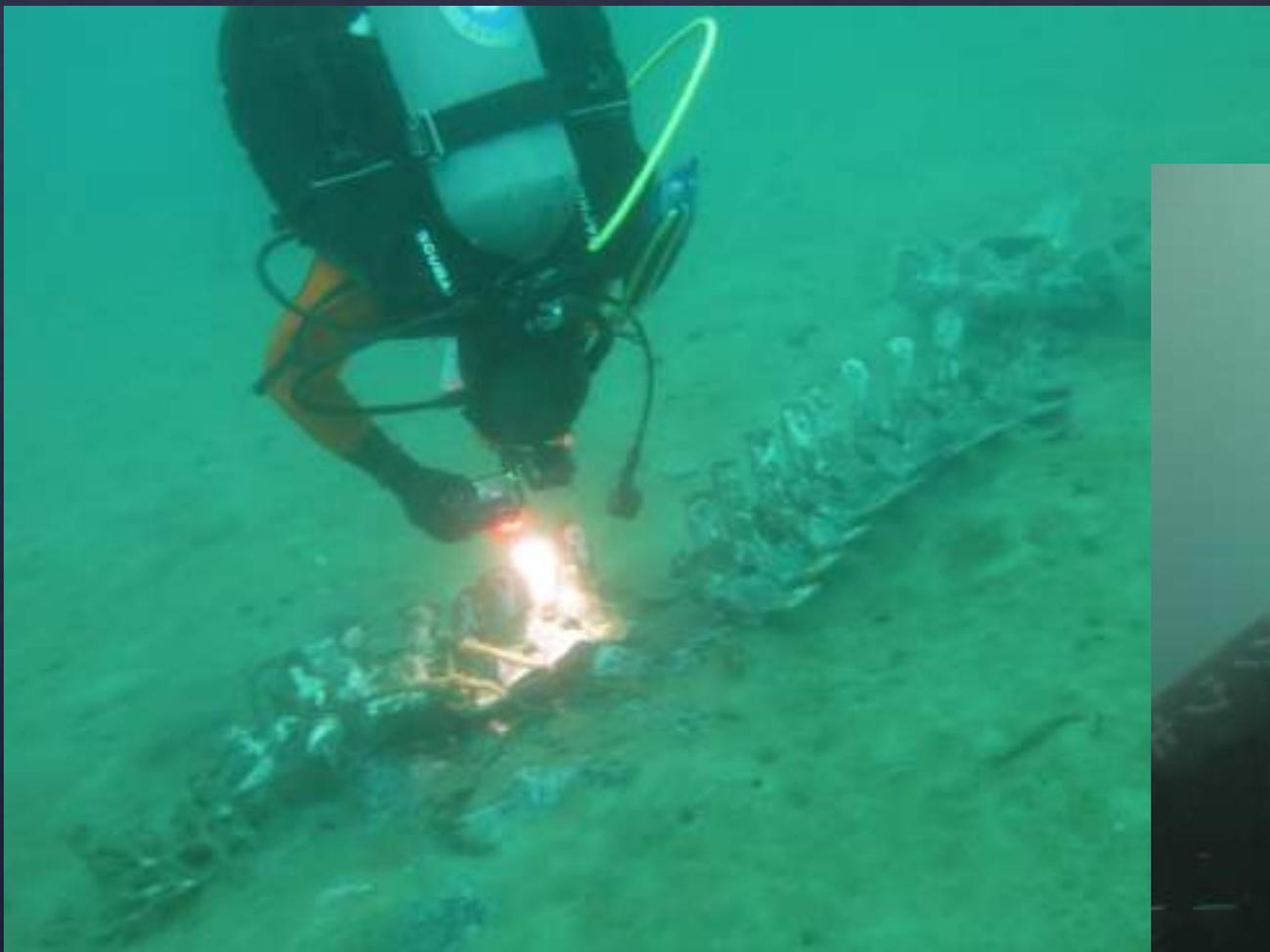
り、クラゲを
キューバ潜水
後は、プラン
ングを行った。

オオツノヒラ
論文に掲載

水をサンプリ
でフナムシを
を採集して提
キューバ潜水
船を用いた
より、マナマ
ボシムシを採
教の依頼に
提供した。

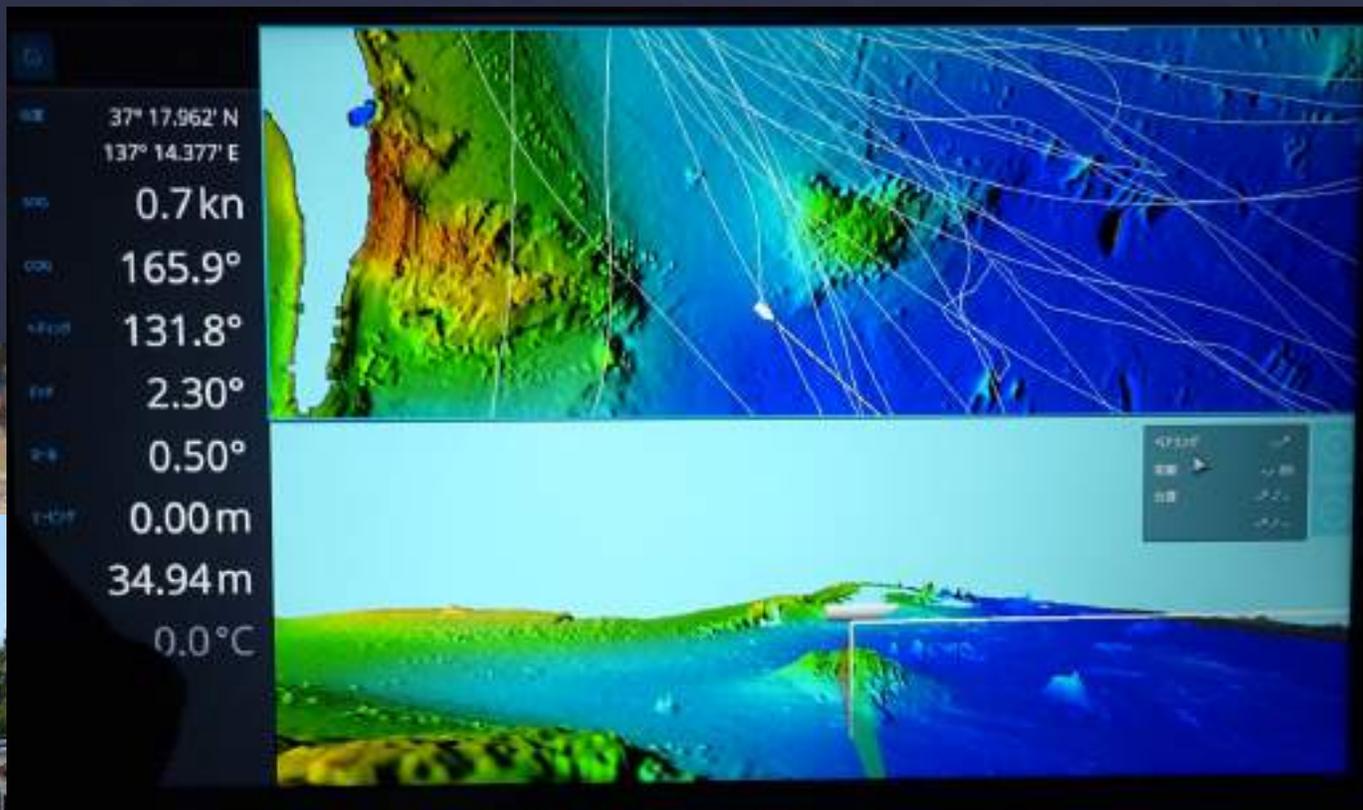
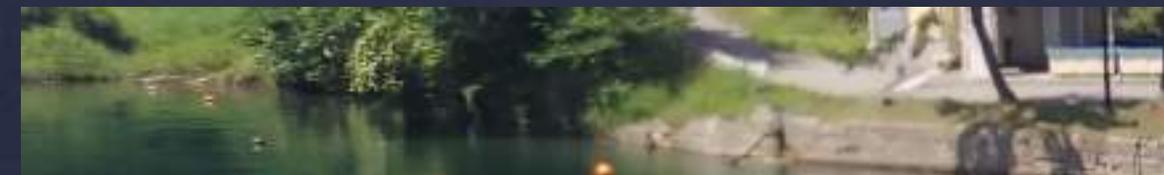
教授、信州大
Eの一環とし
め環境DNA
り潜水してマ
提供した。
て提供した。

潜水技術





船舶を



飼育設備



プラスチックネーション標本





マシコヒゲムシ

- ◇ 世界でも珍しい変わった動物
- ◇ 世界で最も浅い生息地
- ◇ 世界で最もヒゲムシ研究に適した立地

心がけていること

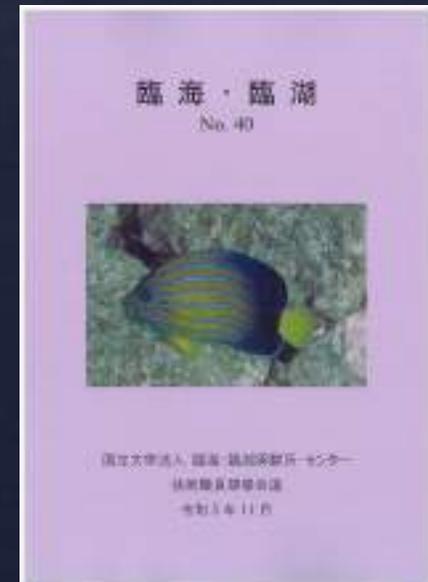
- ◆臨海実験施設を盛り上げたい
- ◆利用者しやすい施設に
- ◆技術・提供サービスの質の向上

国立大学法人 臨海・臨湖実験所・センター 技術職員研修会議

◇ 1974年から毎年1回開催

新しい施設や船の情報、施設と設備の管理状況、
潜水や操船作業の安全管理、必要な資格や許可申請、
生物や採集・調査技術などの発表

◇ 機関誌「臨海・臨湖」の発行



ご清聴ありがとうございました。

がんばろう能登！

がんばろう石川！